

水曜通信16

東北学院宗教センター編

2022年
4月

LIFE

LIGHT

LOVE



「復活」

(ヨハネによる福音書 20:26-29)
田中 忠雄作 1987年

「イエス・キリストの復活」の場面。
イエスは弟子たちの真ん中に復活の体
を示された。ステンドグラスをよく見
ると、イエスの両手両足の釘跡と、槍で
突かれた脇腹の傷の部分には紅いガラ
スが使用されている。イエスの脇の人
物は復活のイエスを疑うトマス。

第10回

泉キャンパス礼拝堂
ステンドグラス紹介

「ベンジャミン・フランクリンと大学」

最近、アメリカ合衆国「建国の父」ベンジャミン・フランクリン（1706-1790）の生涯に関する著作を読む機会に恵まれた。慶應義塾を創設した福沢諭吉がフランクリンをモデルに啓蒙主義を説いたといわれるほどの社会事業家である。父親は、厳格なピューリタンであったが、反発して、理神論に傾斜した。しかし、理神論では人間は道徳的に墮落することを痛感、キリスト教との関わりをもち続けた。印刷業に成功し、ジャーナリストとして健筆を振るうフィラデルフィア市民として、民間の病院、図書館、大学、軍隊を設立し、ついには、アメリカ合衆国独立宣言、合衆国憲法に署名するほどの政治家となった。東北学院の二校祖、ホーイ、シュネーダーは、フランクリン・アンド・マーシャル大学の出身である。フランクリンは、前身のフランクリン大学の設立の際に、援助をしている。東北学院に、フィラデルフィア州の自由と自治の精神の香を感じる次第である。



東北学院宗教センター所長（院長・学長）大西 晴樹

次回：第51回水曜公開礼拝（公開オンライン礼拝）
4月20日配信予定

学校法人東北学院ホームページをご覧ください。

【第1部 礼拝】

説教：野村 信（宗教センターチャプレン）
奏楽：渡辺 真理（本学礼拝オルガニスト）

【第2部 音楽による賛美】

演奏：渡辺 真理
独唱：我妻 健太（テノール）



第50回 水曜公開礼拝報告（説教：長島 慎二、奏楽：小野 なおみ）

2022年3月9日（水） 公開オンライン礼拝

讃美歌：301番 「やまべにむかいて」
聖書：マルコによる福音書16章9－18節
讃美歌：391番 「ナルドのつぼ」
説教：「弟子たちを派遣する」
頌栄：544番 「あまつみたみも」



【説教要旨】

ご復活の主が最初に身を現わされたのは、以前イエスに七つの悪霊を追い出していたいただいたマグダラのマリアでした。七つの悪霊を追い出していたというのはマリアの信仰告白であると思います。問題の多い人物であったのかと想像してしまうマリアは、それ程に自らの罪を赦されたとの思いが強かったのでしょう。主イエスとの出会いによって、心の奥底から自らの罪の深さを悟り、また、主イエスの救いの喜びに涙した存在であったのです。それ故にこそ、主イエスはマグダラのマリアに、ご復活の姿を現わされたのです。わたしたちも「以前イエスに七つの悪霊を追い出していたいただいた」者であるとの信仰告白をもって主に派遣されたいと思うのです。（本学工学部准教授 長島 慎二）

前奏：J.S.バッハ作曲「キリエ、とこしえの父なる神よ」BWV669
後奏：A.レゾン作曲『第6旋法によるミサ曲』より「デオ・グラシアス」



前奏はバッハによる《クラヴィーア練習曲集第3部》の一曲です。ドイツ語キリエに基づいており、ソプラノが定旋律を奏でます。後奏を作曲したレゾンは、バッハと同時代にパリで活躍した音楽家であり、バッハの作品には彼の影響がうかがえます。「デオ・グラシアス」とは、ミサの終わりに司祭が唱える派遣の言葉に続いて会衆が応えることばです。

（本学礼拝オルガニスト 小野 なおみ）

礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏・奏楽：小野 なおみ 独唱：鈴木 真衣）

1. C. サン＝サーンス作曲 「アヴェ・マリア」
2. C. フランク作曲 「天使の糧」
3. M. ラヴェル作曲「二つのヘブライの歌」より第1曲「カディッシュ（頌栄）」



ソプラノ：鈴木 真衣

昨年（2021年）はサン・サーンスの没後100年にあたり、各地で彼の作品が演奏された一年でした。サン・サーンスはごく若い頃から音楽の才能を発揮し、作曲家、演奏家、教育者として86年の生涯で多大な功績を残しました。今回演奏した作品は、彼が作曲した計5曲の「アヴェ・マリア」のうちの一曲です。

さて、今年はフランクの生誕200年にあたります。名曲「ヴァイオリン・ソナタ」で知られるフランクは、近現代フランスオルガン音楽の礎を築いた人物でもあります。数々の重要なオルガン作品を残し、今年はオルガン界においてフランクをテーマとした演奏会や講演会が数多く企画されています。「天使の糧」は「荘厳ミサ曲」の一曲ですが、独奏曲として広く演奏されています。



19世紀末から20世紀初頭の印象主義を代表する作曲家が、「ボレロ」で知られるラヴェルです。「頌栄（カディッシュ）」は、アラム語（イエス・キリストの母語とされる）の典礼文がテキストとして用いられ、フランス印象主義と民族音楽の融合が美しい作品です。（小野 なおみ）

東北学院大学卒業後、フランスのCRR93地方立音楽院声楽科にて音楽研究資格を取得し卒業。'21年第7回下田国際音楽コンクールにて第1位受賞。尚絅音楽教室少年少女合唱団、合唱団Pálinkaボイストレーナー。

ごあいさつ



宗教センター主任
原田 浩司

本年4月より宗教センター主任を拝命しました。専門は宗教改革を土台とするスコットランドの教会史と神学です。また、スコットランドで発展した「長老教会（プレスビテリアン）」に関する洋書を日本に紹介し、これまでドナルド・マッキムをはじめとする数々の書物を翻訳してきました。

宗教センターは2020年4月の開設と同時にコロナ禍に見舞われましたが、「東北学院」全体のキリスト教の活動と理解を一つに結ぶ絆となるべく活動してきました。特に東北学院のスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」の精神に即して、各学校がよりよいキリスト教の教育と活動を行えるようサポートしていきます。3年目となる今年には「ポスト・コロナ」を見据えながら、センターを運営していきたいと思っております。どうぞよろしく願いたします。



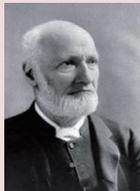
宗教センターチャプレン
野村 信

2022年4月に東北学院宗教センターチャプレンに就任しました野村信です。これまで2年間、宗教センター主任としてセンターの設立に関わることが出来たことは幸いなことでした。これからも、引き続きよろしく願いたします。宗教センターチャプレンは、出来るだけ広範に人々と関わり、各学校の礼拝や宗教行事などに協力し、学院全体のキリスト教活動を活性化する働きを担います。コロナ禍で本来の働きを十分に実践できませんが、今年度はより内容の充実した出版物を発行し、いくつかの催し物などを企画する予定です。学生や生徒の皆さんからのキリスト教についての質問や相談も引き受けますので、気軽にご相談ください。

マーサーズバーグ協会会長からの手紙



ネヴィン
(1803-86)



シャフ
(1819-93)

聖公会の退職主教でマーサーズバーグ協会の会長バクスター (Nathan D. Baxter) 師からの手紙が届きました。マーサーズバーグ (Mercersburg) とはランカスター神学校があった地名で、ネヴィン (John Williamson Nevin) とシャフ (Philip Schaff) によるアメリカにおける重要な神学論争の淵源の地でした。ランカスター神学校に発するこの神学論争を記念して1983年に設立されたのがマーサーズバーグ協会です。

バクスター会長からの手紙では、2月7日の長崎の二十六聖人の記念日が記憶され、アメリカ国内だけでなく地球規模の宣教精神がランカスター神学校がマーサーズバーグ神学から受け継いだ遺産であると記しています。

そしてその例として、1879年のグリング夫妻による日本宣教、1886年のランカスター神学校の卒業生のホーイと日本の押川方義による東北学院と宮城学院の創立、またシュネーダーによる教育を挙げています。



バクスター会長

さらに最近の交流として、2017年以降のブランディング事業による史料センターのランカスター神学校図書館での調査、そして2018年のキャロル・リッチ校長、2019年のランダル・ザッカマン客員教授の仙台来訪が言及され、コロナ以降に予定されている東北学院でのマーサーズバーグ・シンポジウムへのアン・タイヤー教授の参加、また2024年に予定されているランカスター神学校の学生の仙台を中心とする日本研修についても期待をもって記していて、互いの交流によって共有された信仰が強められ、現実の中で神の道具として生きることを折る内容の手紙でした。

(理事長特別補佐 (宗教センター担当) 鐸木 道剛)

「調査報告会」実施報告

史資料センター/宗教センター共催
調査報告会
日時) 2022.1/25(火)
14:30~16:00
場所) ホーイ記念館1階
コウトリエ・リエゾン

プログラム

- ランカスターに保存されていた映像資料
日野 哲 (史資料センター調査研究員)
- 西南学院とキリストン研究
鐸木 道剛 (理事長特別補佐 宗教センター担当)

1月25日に、史資料センターと宗教センターの共催で開催しました。

昨年12月、コロナ危機が少し落ち着いた様子で遠距離への出張が可能となりました。史資料センターの調査研究員の日野哲は雑司ヶ谷霊園の押川家他の墓地調査へ、宗教センター担当の理事長特別補佐の鐸木は、九州福岡の西南学院と長崎に出張しました。建学の精神に関わるその報告会を開催しました。

日野は、東京の各墓園にある押川家や東北学院の歴史に関わる人物の墓地を調査しました。センターではいずれ「墓地散策マップ」の作成を計画しています。報告会では、ランカスターのアーカイヴから借用してデジタル化した日本関係の16ミリフィルム7本を紹介しました。本院の創立50周年に行われた院長交代式の場面や、昭和初期の東北農村で活躍する宣教師と本院

院神学部卒業生、熱心に指導する賀川豊彦などの映像が残されています。

鐸木は、付属博物館がキリストン研究で大きな成果をあげている西南学院を視察しました。東北学院においても、土樋キャンパスに隣接する広瀬川で多数のキリストンが殉教しているし、近代以前のキリスト教受容の研究はもっと可能でしょう。また西南学院の聖書植物園に倣って東北学院には植栽のラビリンスを！またランカスター神学校にも彫像がある聖フランチェスコ発祥の(聖劇のみならず)クリッペ(聖家族の人形展示)を！またハンドベル合奏を！そして小学校を！と西南学院から学べることは多いです。

(理事長特別補佐〈宗教センター担当〉鐸木 道剛)

表紙の枠飾りについて



ヤシュニャ修道院
洗礼者ヨハネ聖堂
1583年 2009年撮影

セルビアの16世紀ポスト・ビザンティンの修道院聖堂の壁画から取りました。洗礼者ヨハネを飾る枠です。背景は高価なラピスラズリの青色です。青地は金地について天国と永遠を表す背景として使用されました。粗悪な青色の顔料を使うと、のちに黒く変色してしましますが、元は青色でした。

青は聖なる色です。ロマン主義者ノヴァーリスの「青い花」。またメーテルリンクの『青い鳥』の青です。聖堂が捧げられている洗礼者ヨハネ像を、聖堂の入り口の上に、金色に近い色の黄色と青色で枠取っています。(鐸木 道剛)



Gojko Subotić/Mičitaka
Suzuki, Manastir Svetog
Jovana Preteče u Jašunji,
2020, Beograd, p.147より



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第16号

2022年4月7日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司

東北学院宗教センター TEL：022-264-6558

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp